

株 式 会 社 片 岡 製 作 所

新本社・新工場整備 将来事業構想

2022 年 7 月

株式会社 片岡製作所

## 1. 新本社・新工場整備の背景

- ・ 株式会社片岡製作所は京都市南区久世築山町を創業の地とし、現在も当地に本社及び主要工場を置く、創立 54 年のものづくり企業です。「誠実な心を持って信頼される製品を生産し、社会に貢献する」という創立以来変わらない社是のもと、先端技術で社会に貢献しています。
- ・ 当社は、レーザ加工システム、二次電池検査システム、ライフサイエンスの 3 つのフィールドで特定分野に狙いを定め、世界トップシェアを獲得する経営戦略で、2020 年には、経済産業省認定「グローバルニッチトップ企業100選」に選定されました。
- ・ また地域に根差したCSR活動などが高く評価され、2021 年の京都市輝く地域企業表彰において、地域企業輝き特別賞を受賞しております。
- ・ 超精密加工へのニーズの高まりや、電気自動車(EV)の普及、iPS 細胞(人工多能性幹細胞)の実用化の進展を踏まえ、当社の主力製品であるレーザ加工システム、二次電池検査システム、細胞プロセッシング装置の需要は、今後いずれも大きく拡大することが予想されています。
- ・ これらの需要拡大に応えるため、現状を上回る床面積を十分に確保した新本社、新工場を整備いたします。

## 2. 基本方針

### ① 市場ニーズに対応した事業拡大、雇用拡大

当社製品への世界的なニーズの高まりを受けた事業拡大に対応するため、環境負荷が少なく働きやすい職場環境を提供し、事業や技術を継承できるビジネス環境を整備するため、新本社を建設します。あわせて生産能力を向上させるために最新鋭の新工場を建設します。

新本社及び新工場の整備に伴い、雇用の拡大を図ります。

### ② 生産機能の拡充・集約化

現在分散している工場や事務所を集約し、片岡製作所全体を一体的に再整備することで、生産性を高めると共に、各部門の社員が集える講堂や食堂の新設など福利厚生充実を図ります。

### ③ 研究開発センター、企業ミュージアムの新設

今後 50 年、100 年先においても京都から世界一の新製品づくりにチャレンジするため、研究開発センターを新本社に新設し、これまで取り組んできた産学連携プロジェクトなどをさらに進化させます。

また、企業ミュージアムの設立に伴い、地域の小学生から大学生が社会学習できる場所づくりを行うと共に、国内外に自社製品をアピールする施設を併設します。

### ④ 社会貢献・地域貢献(脱炭素、住環境調和、防災拠点)

地球環境への取り組みの一つとして脱炭素社会に対応するため、環境負荷低減、長寿命化を図った建物を計画します。

災害時の避難場所、備蓄品の常備等、地域の防災拠点として場所を提供し、安全安心のまちづくりに貢献します。

地域の防犯、交通安全等への協力、消防署などと連携した防災講習など、地域の防犯防災活動に貢献します。

### ⑤ 京都市の産業政策との親和性

京都市の産業振興方針と施策展開の方向性を示した産業戦略ビジョンにも合致した、グローバルに通用する高い技術力を持ったものづくり企業として成長することで、京都市の産業成長の一助となる計画とします。

## 3. 施設整備構想

### ① 施設整備構想

向日町上烏羽線を挟んで北側敷地には研究開発センター、防災拠点、企業ミュージアム等の新たな機能を集積させた新本社を計画し、社内外のコミュニケーションを活性化、イノベーションの促進を図ります。

同線南側の敷地には、これまで分散されていた各種工場を集約した新工場を計画し、新本社や既存工場と円滑な連携を図り、世界的な需要拡大に対応できるよう生産力の拡充に取り組めます。

### ② 新本社の整備計画

事務所機能の集約及び拡充に加え、主力製品の世界的な需要拡大に対応するため、製品の研究開発に特化した研究開発センターを新設します。研究開発センターは、現在の研究開発部部門の約2倍の床面積を確保し、企業発展に伴う人員の増加に対応する計画です。また地域や社外との交流を促進するための企業ミュージアム、講堂、地域の防災拠点となる防災倉庫の新設や一次避難場所を確保した整備計画としています。

### ③ 新工場の整備計画

施設全体で既存工場群の約2倍の床面積を確保する計画です。既存工場を集約することで生産の効率化を図ると共に、マーケット拡大に伴う需要増加の予測に基づき、工場機能を拡充し、生産能力を確保します。また、今後新たな需要が見込める分野での新製品に対応した生産能力を確保した整備計画とします。

### ④ ゾーニングの方針

計画区域は、向日町上鳥羽線を東西軸として、北側が住居系地域、南側が工業系地域に指定されています。この地域特性に合わせて北側敷地に周囲との親和性が高く音や振動の発生が少ない新本社、南側敷地に既存工場との連携を考慮した新工場を計画します。

### ⑤ 北側敷地の施設配置イメージ

本社・研究開発センターは、事務所機能の集約及び拡充に加え、主力製品の需要拡大に対応するための研究開発センター、企業ミュージアム、講堂、防災拠点の整備などに伴う必要面積を確保しつつ、多様なワークスタイルに対応したフレキシブルな空間とするための階高を確保し、建物の長寿命化を図るため、建物高さ31m の計画とします。

また、隣地から建物をセットバックさせることで空が見える範囲を大きくとり、周囲に対する圧迫感を軽減します。敷地北側には地域の憩いの場となる広場を計画し、建物周辺を緑化すると共に、敷地東側には遊歩道を計画し、良好な住環境や地域の子もたちをはじめとする歩行者の交通安全に配慮します。積極的に屋上緑化や太陽光発電機を屋上に配すなどCO2削減を実現し、環境へ配慮した取り組みを積極的に行い、周辺地域と調和した良好な景観の形成に努めます。なお、高さ31m でも高さ20m と比較して日影の影響が増大しない計画とします。

### ⑥ 南側敷地の施設配置イメージ

新工場は、今後の主力製品への需要拡大への対応や、既存工場の集約に伴う必要面積を確保すると共に、敷地南側は建物を十分にセットバックさせ周囲への圧迫感を軽減し、車両の出入りに十分なスペースを設け、前面道路で渋滞が発生しないよう配慮します。

また、敷地内の緑化率を20%以上確保した緑豊かな工場とします。

太陽光発電機を屋上に配すなどCO2削減を実現し、環境へ配慮した取り組みを積極的に行い、周辺地域と調和した良好な景観の形成に努めます。

#### 4. 終わりに

当社は、創業地である京都市南区久世築山町に根差し、地域と共存しながら事業を行ってまいりました。今後もこの地から世界に向け、最先端の製品を展開してまいる所存です。構想している新本社・新工場の整備を通じ、地域との関係をさらに深め、地域のまちづくりに貢献していきたいと考えております。

## < 施設整備構想図 >



<将来構想 建物概要>

現状				
建物名称	用途	構造・規模	延べ床面積	備考
久世工場	【工場】 工場、研究開発施設、休憩室など	鉄骨造 地上4階建て	約3,400㎡	高さ 約20m
レーザ工場	【工場】 工場、研究開発施設、休憩室など	鉄骨造 地上4階建て	約4,200㎡	高さ 約19m
システム工場	【工場】 工場、休憩室など	鉄骨造 地上2階建て	約3,000㎡	高さ 約15m
第二工場	【工場】 工場、倉庫、休憩室など	鉄骨造 地上2階建て	約1,500㎡	—
第三工場	【工場】 工場、倉庫、休憩室など	鉄骨造 地上2階建て	約1,300㎡	新工場に集約
第四工場	【工場】 工場、倉庫、休憩室など	鉄骨造 平屋建て	約700㎡	—
		合計	約14,100㎡	
本社	【事務所】 事務所、会議室など	鉄骨造 2階建て	約600㎡	新本社に集約
※事務所用途については、本社の他に各工場に分散しています。 【本社を含む事務所用途の面積】顧客対応、営業関係等：約700㎡、研究開発関係等：約1,200㎡				
		合計	約600㎡	



将来構想				
建物名称	用途	構造・規模	延べ床面積	備考
久世工場	【工場】 工場、休憩室など	鉄骨造 地上4階建て	約3,400㎡	高さ 約20m
レーザ工場	【工場】 工場、休憩室など	鉄骨造 地上4階建て	約4,200㎡	高さ 約19m
システム工場	【工場】 工場、休憩室など	鉄骨造 地上2階建て	約3,000㎡	高さ 約15m
新工場	【工場】 工場、倉庫、休憩室など	鉄骨造	約18,000㎡	—
		合計	約28,600㎡	
新本社	【事務所】 事務所、会議室、 研究開発センター、 企業ミュージアム、講堂 防災拠点など	鉄骨造 地上7階建て	約6,400㎡ 【新設する主な機能の面積】 研究開発センター：約2,800㎡ 企業ミュージアム：約300㎡ 講堂：約500㎡	高さ 約31m
その他	緑地、広場、遊歩道など	—	—	—
		合計	約6,400㎡	

※現時点の計画のものであり、今後変更の可能性あります。

以上